

塘研究室現地調査報告 2

6月9日と11日に裏磐梯にて現地調査を実施しました。調査者は塘研究室の4年生、大学院1年生、教員の3名でしたが、9日は環境システムマネジメント専攻の3年生1名がお手伝いで参加してくれました。調査内容は裏磐梯で発見された大型ヒメシロカゲロウ属の一種の分布調査と地表徘徊性甲虫類の分布調査です。

ヒメシロカゲロウ属の一種については、桧原湖畔探勝路付近のニチレイ社有地内の池沼以外に本種の生息地を見つける調査を実施しました。2日間かけて、中瀬沼探勝路沿い、レンゲ沼周辺、そして休暇村敷地内のハス沼など多くの池沼を探索した結果、姫沼、レンゲ沼、中瀬沼、ハス沼など新たな生息地を8ヶ所も見出すことができました。これで裏磐梯ではニチレイ社有地内の池沼(3ヶ所)と桧原湖探勝路沿いの池1ヶ所を含めて本種の分布確認地点は12ヶ所となりました。

今年度から(4年生の卒業研究として)開始した裏磐梯での地表徘徊性甲虫類の分布調査では、調査地を噴火の影響の有無や植生の違いなどに対応させて選定しました。桧原湖畔のニチレイ社有地内(アカマツを主とした林)、金山のミズナラ林、桧原のブナ林とカラマツ林に20-40個のピットホールトラップをかけた結果、オサムシ類に混じってコルリクワガタが採集されるなど、まずまずの成果が得られました。詳細はまたの機会に報告します。

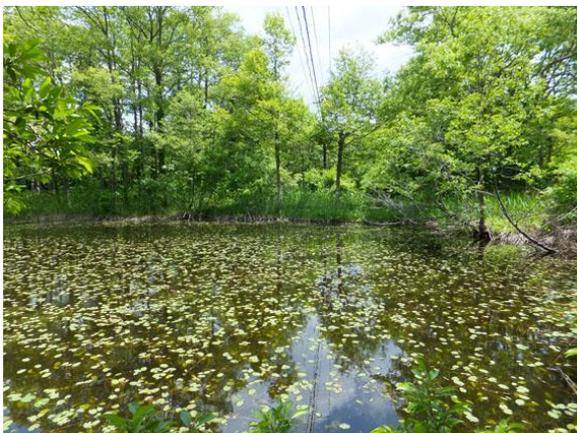
裏磐梯は新緑の季節を迎え、春のトンボ発生シーズンになりました。桧原湖畔のニチレイ社有地内の池周辺では夥しい数のエゾイトトンボが見られます。また、多数のヨツボシトンボ、カラカネトンボが飛び回り、林内では色付いてきたアマゴイルリトンボがひっそりと休んでいました。



休暇村裏磐梯敷地内のハス沼



レンゲ沼付近の池沼にて調査中



姫沼にもヒメシロカゲロウ属の一種が分布



林床のチゴユリが見頃でした